

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 19 年 11月 20 日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 16時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームみなせ 号館 (大阪府)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 平井 英蔵
	氏名 南 ヤエ
事業所側対応者	職名 副ホーム長
	氏名 轟木 悟 ヒアリングを行った職員数 (2)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。

「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2773900176
法人名	日本ロングライフ株式会社
事業所名	グループホームみなせ 号館
所在地	〒618-0015 大阪府三島郡島本町青葉一丁目20番13号 (電話) 075-963-3811
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北二丁目1番地10号 ATC ITM棟9階
訪問調査日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(平成19年10月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 12年 8月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 26 人
職員数	18 人 常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算 18.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋ALC耐火 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(6,800,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 2,000 円			

(4) 利用者の概要(10月7日現在)

利用者人数	15名	男性	3名	女性	12名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	3	要介護4	5		
要介護5	6	要支援2			
年齢	平均 84.5歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 光輪会 さくらクリニック ・ トヨシマ歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は和式建築で田園が周辺にあり、落ち着いた環境の施設である。また、駅から施設まで徒歩数分で、周辺には商店多く、交通や買い物に便利な環境である。敷地内には、果樹園と称し、四季折々の果実を利用者と共に収穫でき、季節を感じられるよう工夫されている。施設内は昔の雰囲気大切に装飾は施され、廊下に多くの長いすを配置し好きな場所で寛げる工夫がされている。各居室は自宅で使用した家具を使用し馴染みを大切に配慮がされている。この施設では、「グッドフィーリング」を基本理念に、現在の利用者の状況にだけでなく、育った歴史的背景や以前の生活(趣味や趣向など)に着目した介護が提供されている。また、職員は法人の研修などに多く参加し日々サービス向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では「特に改善を要する点はなし」との評価であった。今回もほぼ良好に推移していると評価される。今後、利用者に対するサービスについても社内での評価基準などを設け、サービスの向上に向け努力されることを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 母体法人で、各施設に対し組織的な評価が行われており、前回の自己評価についても職員に対し説明理解がされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議の内容は町や家族に送付する他、母体法人に報告され組織的に対応策を講じている。また、3ヶ月に1度地域の民生委員の視察を受け、利用者の生活状況などの確認を受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 母体法人で「お客様相談窓口」を設け苦情の対応をする他、運営推進会議時家族からの苦情を聞く時間を設けるなどの対応がされている。また、これら家族の苦情に対しては、「クレーム報告書」とし記録に残し組織的な対応を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に合わせ、施設を開放し出店など住民の方たちとのふれあいの機会がつけられている。また、地域民生委員の視察を受けサービス向上にも努めている。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 平井 英蔵 / 同行調査員氏名 南 ヤマ

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はないがグループホームとしての理念「グループホームのしおり」があり、入社時のガイドブック「グループホーム(ユニット)ケア」として掲載し研修を受けている。		事業所の入り口に理念が表示されているが、利用者や家族に具体的な内容が少し解りづらい部分もあり、今後、より具体的な表現で、理解し易いものを付け足され掲示されることを望む。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「経営の基本理念」「グッドフィーリング・顧客満足」を毎日の朝礼で唱和し、実践を心がけている。		理念の唱和が形式的になることなく、利用者・家族の要望を汲み取っていくことがグッドフィーリング等の理念の理解と考えられる。各職員が理念を共有し取り組む事で、サービスの向上に繋がるものと考ええる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の自治会主催の大掃除会や市民ホールにて行われるイベントや夏祭りに参加している。		盆踊りなどでは出店、クリスマス会を初め、地域の自治会や民生委員などとの交流もある。施設での行事で地域の方たちが自由に施設内に入れるなど、開放的な活動を行っている。今後もより一層の地域密着活動を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームランク評価制度(ランキング表)、内部監査(監査指摘項目表)、コンテスト(ウィークリニューズ)		ホームランキング評価制度・内部監査制度・コンテストは日本ロングライフ株式会社が所有する施設を均一の基準の下、駅からの距離や建物の状態などで評価されている。今後、利用者に対するサービスについても評価基準などを設け、サービスの向上に向け努力されることが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は議事録として記録し、町、家族様に送っている。		運営推進会議には現在、家族と役所から参加されているが、固定的なメンバーとのならない配慮と、民生委員などが3ヶ月に1度視察を行われていることから、これらの意見を参考にすることで、よりサービスの向上に繋がると思われる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の相談員が3ヶ月に一度来訪し、入居者様の生活の様子をチェックしている。		地域の民生委員が3ヶ月に1度視察を行い、利用者の方々と対話を通し、施設の状態などを確認されているが、その際の記録などを民生委員から提出していただき、サービスの向上に繋げることが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月5日に、1ヶ月間のお客様の状況を文書にて報告、また、1ヶ月間の預かり金の出納状況や会社情報誌、イベント報告なども同時に送付している。		行事予定表のほか、利用者の様子などが毎月家族に対し報告されているが、担当職員などの人事異動についての報告や、長期間面会の無いご家族に対してはこれ以外の方法も用いて、連絡を取ることが望ましい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議においてご家族様の意見、苦情などを伺う時間を設けている。その他、ホームではホーム長、副ホーム長、ケアマネが窓口となって対応、本社ではお客様相談室が対応している。ホームで受けた苦情の場合、業務日報やクレーム報告書で迅速に本社へ提出、解決を図っている。		本社で「お客様相談室」を設置するなど、他のグループホームでは無いような対応と、事業所での運営会議にご家族の参加がされているものの、参加されるご家族が固定しつつあるとのことである。今後、日ごろ参加されないご家族の意見をくみ取る対応が望ましい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・ケアマネージャーが交代する際は引継ぎやご入居者様・ご家族様への説明・挨拶を行うが、その他の職員の場合は都度の説明は行っていない。また、混乱されやすいお客様に対しては説明・挨拶をあえて行わないようにしている。		管理者やケアマネージャーの人事異動の報告はされている。しかし、社員数も多く、グループ内での人事異動が多いようである。利用者への影響を考慮しあまり報告されていないが、ご家族に対する報告は一般の職員についても今後、報告されることが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、1ヶ月目、3ヶ月目の新人研修、入社3年以上が対象のブラッシュアップ研修、学院主催の有料講座、労働組合主催のステップアップ研修会など、社内で様々な研修を用意している。また、ケアマネやナース、管理職、ディレクター(現場リーダー)を集めた各種専門職研修を行っている。(施設記述)参加必須の研修以外は参加率が低い。スタッフ各々に有意義な研修にはもっと参加していき易いよう配慮する必要がある。		サービスの質の向上のため、日々研修やライセンス制度を取り入れ研鑽されているが、研修時間が利用者に対するサービス提供の時間帯と重複している為、日々の介護人員に影響の出ない配慮が求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	所謂、事業者連絡会などの外部の同業者との交流はまったくない。 事業者連絡会など、社外の職員の方々と交流するような会にもっと参加して行きたい。		組織が大きい為、外部からの情報も入手しやすく、また、各職員に対する周知の方法も確立されているが、今後、小規模のグループホームなどを知る事で新たなサービスへ繋がることもあるため、努力が求められる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後も落ち着かれない場合はご家族様と密に連絡をとる。一週間に一回ご自宅へ帰られる方、遠方のご家族様から一週間に一回連絡をいれて頂いている方もいる。		入所後、精神状態等不安定な利用者に対して対応がされているが、他の事業所からの移行の場合、前施設への訪問などをする事で、入所時の安心感に繋がる為、今後努力が求められる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護職をサービス業として理解し、ADLだけでなく心の変化にも重きを置くケアを実施している。そして、それを申し送りやケアダイアリーを利用し、良い事も悪い事も共有している。		入所時から、その方の生活リズムを把握し、そのリズムに合わせ、日常では食事の準備や季節によって敷地内の果樹園に出向き、その季節の果実などを収穫しながら、生活の変化や季節感を感じられるサービスの提供が行われている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者個人の歴史的背景・性格・嗜好品・ホームでの暮らし・医療への意向・ADL・生活リズムなどの把握に努め記録して職員が共有している。</p>		<p>グッドフィーリングに基づき、ホームプラン（ケアプラン）・サポートプラン・週間サービスプラン・などが作成され、入所時からモニタリングをきめ細かく行っている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各フロア小集団があり、3人～4人（キャプテン1名）のスタッフに対して4～5人のお客様を割り当て、その中で1～2名のスタッフで2～3名のお客様の課題、ケア変更の案を提示し、話し合っていく。（フロアミーティングから上がった内容をケアマネジャーが中心に検討し、ケアプランに活かしていく）</p>		<p>利用者の担当やスタッフが組織的に構築されており、個別の介護計画や施設全体の計画など本グループホームだけでなく、上部組織の監督も含め行われている。また、頻繁に上部組織から建築面や設備面、サービス面などを確認に担当者が訪れ改善に努めている。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリング、半年に1回のケアプランの見直しを行い、内容をご家族へ確認し署名、捺印をいただく。</p>		<p>介護計画等については、3ヶ月や半年と適宜見直しが行われているが、理念の「グッドフィーリング」については特段変化の無い利用者については見直しをあまり行わないとの事である。認知症の状態も重度化することが考えられる為、今後適宜見直す事により、よりきめ細かいサービスの提供に繋がると考えられる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護保険外サービスの付添いやご家族様の宿泊。</p>		<p>同グループ内の施設が複数在るため、他の施設と合同で行事したり、個別のニーズ（個人で故郷に帰省したい）に対しても柔軟な体制でサービスの提供が行われている。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関（往診専門）以外に通院を希望されている方に関しては継続していただけるよう支援している。また緊急時の搬送先または搬送されたくない病院があれば希望をお聞きしている（入居者緊急時、重度化対応）。</p>		<p>地域の医療機関を中心に以前からの継続的な医療機関の対応と、往診にて日常の健康管理を行っている。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族様とかかりつけ医との話し合いを出来る限り多く設定し、終末期の対応の方針を検討、介護スタッフに対して内容の報告や意見聴取をし、対応を煮詰めて行く。</p>		<p>利用者本人や家族の意見を事前に十分確認し医療機関の協力のもと、希望者に対してはできる限り施設内で終末期を迎えられる対応がされている。そのことを文章で残すことが望まれる。現在まで退所者の約半数の方が、施設内にて終末を迎えられた。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>朝礼で社員手帳記載の社員遵守事項を唱和し、意識向上に努める。不適當な言葉掛けをした者には都度その場で注意し、意識の向上に努める。</p>		<p>基本的に同性介助ができるよう努力されているが、全ての面に適応できてはいない状態である。また、職員と利用者の関係が良好であるが、利用者の居室へ入室時に確実な声掛けがあると一層良い。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「グッドフィーリング」の理念に基づいた独自のアセスメントシート「グッドフィーリングシート」を用いてその方らしさを大切にケアを行うよう、努めている。</p>		<p>「グッドフィーリング」に基づき、現在の生活状況だけにとらわれず、今までの生活層などの中からその方に適したサービスの提供や、季節に応じ地域の環境も活かしたサービスが行われている。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	午後のおやつと一緒に作ったり、調理日を設定したりしている。		日常では食事の準備や週に一度のお菓子を職員と一緒にする。日々の食事について、調理場で刻み食や、ミキサー食にするのではなく、各ユニットのダイニングルームでその方の状態に合わせて作業していた。朝食も週の中で和食・パン食・おかゆ食と変化がある。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務割によって夜間に入浴することは対応できていないが、画一的な入浴ではなく、お一人お一人のタイミングや入浴間隔によって柔軟に対応している。		介助浴は階段や手すりなどが有り、湯船へのアプローチも木材で段差を少なくしている。浴室に窓が無いので衛生面には特に配慮しているように見受けられた。少し閉鎖的な雰囲気になっているのは致し方ない。また、器械浴が簡易的なもので使用時、少し安定感が不足しているように感じた。希望者には別途、個室も設けられていた。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な方と一緒にボタン付けを行ったり、かつて踊りの先生だった方に舞踊していただいていたが、最近はおしなべてADLが下がっており、やりにくくなってきている。		利用者のADLの低下に伴い活動が縮小傾向にあるが、敷地が広く、近隣の環境に恵まれていることや1F階のロビーなどを活用する事で楽しみごとやくつろぎの支援に役立てることができる。利用者自ら意欲を起すように職員の働きかけを期待する。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	完全にご希望通りといかないが、なるべく戸外への散歩などはするようにしている。		平均週に2回程度外出を伴う介助がされている。訪問時は気温も低く1名の方のみ外出の介助を受けられていた。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はついていない。敷地前の門は施錠している。		敷地が広いことを活かし、居室・EV・建物入り口には施錠がされていない状態で、裏庭には果実のできる樹木や、小さなログハウスがあり開放的な雰囲気が感じられた。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを用意している。消防訓練を11月に実施予定。		火災対策は地域の消防署の指導もあり対応しているが、非難訓練を平素から行う事で職員をはじめ、緊急時の対応が迅速にできるようになるため、今後努力されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自ら水分摂取の要求が出来ない方には声掛(水分補給の時間を決めている)。医師の指示がある方にはリズム表にて水分量のチェック。糖尿病の方には食事療法を行う(糖尿病食は出しておらず、量を調整している)。リズム表		医師の指示などがリズム表などの活用により、日常的に配慮されている。利用者個人別の水分や食事と排尿や排便の関係が一目で確認できる表が作成されていない為(リズム表には記載あり)今後、作成する事でより栄養や水分に対する支援が充実すると考えられる。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階大リビングは前面窓を取り入れ、ホーム正面の田園と山が見える。浴室は、檜を使い、リラックスして入ることが出来る。		施設全体に排泄などの臭気無く、廊下の各所に長いすが配置され景色を眺めたり、職員や他の利用者の動きを眺める配慮がされていた。また、小型犬が飼われ利用者の精神的安定の一翼を担っていた。2階に有る各ユニットのリビングはダイニングと共有である、1階の広いリビングでゆったりした時間を増やす工夫を期待する。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、ベット、照明器具は備付けたが、それ以外は、ご本人が使い慣れたものやご家族様が購入されたものを置く。		各居室は明るく、部屋によっては山並みなど風景を見ることができ、季節感を感じることもできるようになっている。また、本人が以前使用していた家具や、現状に合わせた家具が配置され、各居室にトイレもあり明るく清潔感のある居室であった。

は、重点項目。